

## 新発見!

## 最古の「柄付き鉄製鉋」



### 弥生時代中期前半の完存する 鉄製木工具（鉋）が出土

小松市八日市地方遺跡は、J R小松駅の東側一帯にひろがる弥生時代中期の大規模な集落遺跡です。北陸新幹線建設に係る発掘調査が終盤に差し掛かった平成29年6月、遺跡内を東西に貫いて流れる川跡から弥生時代中期前半（約2,300年前）の「柄付き鉄製鉋」（全長16.3cm）が出土しました。木製の柄が完全に残る鉄製鉋としては、国内最古の出土例になります。

この鉋は、大陸からもたらされたもので、鉄器が列島各地に普及していく過程を考えると、とても重要な資料となります。



調査員もビックリ!の発見でした



H29 発掘調査

おおすがなみ いせき かがし  
大菅波コショウズワリ遺跡 [加賀市]

大菅波コショウズワリ遺跡は、JR 加賀温泉駅から福井方向へ約 1 km の丘陵裾から低地にかかる場所に立地する集落遺跡です。調査は北陸新幹線建設に伴い平成 28 年度から行っています。昨年度の調査では、旧石器時代末の槍先形尖頭器やりさきがたせんとうきや縄文時代の土器・石器、古墳時代終末期（7 世紀代）と中世の掘立柱建物ほったてばしらたてものがみつかりました。

今年度の調査では、北側の丘陵から低地へと向かって流れていた川の両岸において、古墳時代後期から平安時代と江戸時代前半の集落跡が確認できました。

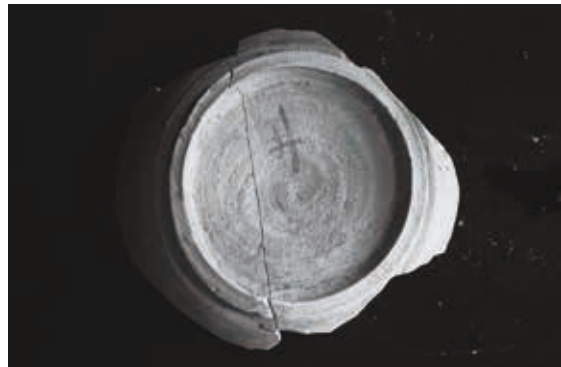
古墳時代から平安時代に最盛期を迎えた集落では掘立柱建物群や周りに溝をめぐるせた建物が建てられ、土器を多く捨てた穴や道路の痕跡もみつかりました。建物群のそばを流れる川からは土師器はじきや須恵器すえきとともに、道教の呪文である九字の略号「#」と墨書された須恵器ほくしよがみつかり、水辺で祭祀を行った後、川に廃棄されたものと推測されます。また、川からは縄文時代中期頃の土器や石鏃せきぞくなど集落より古い時代の遺物もみつかり、北側にひろがる丘陵部から流れ込んで来たものと考えられます。

江戸時代にはいると、より地盤の安定した丘陵近くに集落の中心が移ったようです。調査区は集落の縁辺部にあたり、南の低地に広がりが見られる耕作地を前に、井戸や編物を敷いた穴などとともに簡易な建物の建つ風景が広がっていたものと思われます。

今回の調査では集落内を流れる川の周囲で暮らす人々の様子が明らかとなりました。調査地の小字名こあざである「コショウズワリ」について、現在伝わる表記は「小姓生割」という地割の名残ですが、湧水などを表す「生水しょうず」との関連も想定でき、水と関わりの深い土地であったことが調査結果からもうかがえます。



槍先形尖頭器（旧石器時代末）



九字の「#」と墨書された須恵器（奈良時代）



川と掘立柱建物群



穴に敷かれていた編物のアップ（江戸時代前半）

## H29 発掘調査

そのまち いせき こまつし  
園町遺跡 [小松市]

小松市園町地内に所在する遺跡で、<sup>かけはしがわ</sup>梯川左岸から約 150 m に位置します。本遺跡の南約 2 km には、弥生時代中期の大規模集落として知られている八日市地方遺跡があります。

遺跡は北陸新幹線建設工事で発見され、弥生時代中期～後期と中世の集落を確認しました。弥生時代の遺構は中期のものが大半を占め、八日市地方遺跡とほぼ同時期のものと考えられます。中世の遺構は 13～14 世紀を中心とするもので、<sup>ざい ちりょうしゅ</sup>在地領主による梯川流域の開発が進められた時期にあたり、遺跡周辺は<sup>しら えのしやう</sup>白江荘の領域内にあったものと考えられています。

弥生時代の主な遺構は<sup>かんごう</sup>環濠（集落を囲む溝）、<sup>ほうけいしゆうこう ぼ</sup>方形周溝墓（溝に囲まれた墓）です。環濠は幅約 3 m、深さ約 70～150 cm を測り、弥生時代中期の土器とともに<sup>そうしんぐ くだたま</sup>装身具の管玉などを製作するときに生じる<sup>へきぎよく</sup>碧玉の破片が多く出土しました。

方形周溝墓は環濠の南側に集中しており、環濠を境に<sup>ぼいき</sup>墓域が形成されたものと考えられます。死者が葬られた<sup>まいそうしせつ</sup>埋葬施設は比較的高いところにあった為、後の整地で削られたものと推定され、みつきりませんでした。

中世の主な遺構は<sup>ほったてぼしらたてもの</sup>掘立柱建物、井戸などです。井戸は<sup>たていた</sup>縦板を井戸枠とし、井戸底の水溜に<sup>みづため まげもの</sup>曲物を据えるものが多くみつかっています。



環濠南側の方形周溝墓群（弥生時代中期）



方形周溝墓（弥生時代中期）



環濠に捨てられた土器（弥生時代中期）



縦板組の井戸（中世）



曲物の水溜（中世）

H29 発掘調査

だいりょういせき こまつし  
大領遺跡 [小松市]

大領遺跡は、木場潟の北側約 500 m に位置します。今回、北陸新幹線建設に伴い初めて発掘調査が実施され、古代（奈良・平安時代）と中世（鎌倉・室町時代）の2つの道路遺構を確認しました。両道路遺構は約 40 m 離れた場所でみつき、どちらも路面は後世の耕地整理時に削平を受けていましたが、古代の道幅は約 8 m、中世の道幅は約 7 m で、それぞれ両側に側溝を持つ道路遺構の延長約 30 m 分が直線状にみつかりました。出土遺物から、古代の道路遺構は、8 世紀後半～9 世紀初頭、中世の道路遺構は、16 世紀後半には機能していたと考えられます。

南加賀を通る「古代北陸道」は、平安時代後半に海岸沿いのルートが想定されていますが、津幡町加茂遺跡や金沢市観法寺遺跡、野々市市三日市 A 遺跡など県内でみつかった奈良時代前半の道路遺構は、今回大領遺跡でみつかったものと同規模であり、奈良時代前半の「古代北陸道」であった可能性があります。遺跡付近は、現在も国道や JR 北陸本線が走る交通の要衝であり、南加賀地域における古代・中世の陸上交通路のあり方を知る上で注目されます。

また、砂層中から縄文土器が出土したことから、遺跡周辺に縄文時代の集落が存在していた可能性があります。古代～中世の畝溝や水路状の遺構も検出したことから、当時調査区周辺には畠や水田などの生産域が広がっていたと考えられます。



木場潟

調査区遠景（北東から）



古代の道路遺構（南西から）



中世の道路遺構（南西から）



古代～中世の畝溝と水路（北西から）



砂層から出土した縄文土器（縄文時代後期）

H29 古代体験

夏休み『親と子の発掘体験教室』

本体験教室は、小学校4年生～中学生とその保護者及び一般県民を対象に、実際に遺跡の発掘を体験する教室です。平成29年度は、第1回を7月29日(土)に加賀市の「庄・西島遺跡」で、第2回を8月26日(土)に羽咋市の「酒井バンドウマエ遺跡」で開催し、それぞれ11組25人の参加者が、遺跡の発掘や出土品の洗浄を体験しました。

当日は炎天下の中の発掘にもかかわらず、汗を流しながら、土器をみつけようと頑張る姿が印象的でした。参加者からは「時代をタイムスリップしたような気持ちになった」との感想も聞かれ、教室の最後には、隊長から一人一人に「こども考古学者認定証」と記念品が手渡されました。



発掘のようす



出土品の洗浄体験



「こども考古学者認定証」の授与

H29 情報発信

夏休み『まいぶん・バックヤード・ツアー』

夏休み企画で、8月21日(月)から31日(木)の平日午前に行い、今年は延9日間で86人の参加がありました。

順路は、①収蔵展示室→②洗浄室→③整理作業室→④金属器処理室→⑤収蔵庫→⑥木器処理室→⑦情報処理室→⑧「いしかわの発掘展」です。今年はそのに加え、小松市八日市地<sup>かた</sup>方遺跡出土「柄付き鉄製<sup>えつ</sup>鉈<sup>てつせい</sup>」模造品展示もあり、解説を加えることもありました。21日にテレビ取材があり、昼に放映された関係で、「放送を見て面白そう」と参加される方もいらっしゃいました。



第19回いしかわの発掘展

『遺跡が語る 発掘20年の歴史—旧石器から古墳時代編—』

来年、当埋蔵文化財センター設立20周年を迎えるにあたり、今年、来年とこれまで実施してきた発掘調査の成果を振り返る展示を行います。今年は旧石器時代から古墳時代にかけて約300点の展示品を紹介しました。平成29年7月14日（金）～9月3日（日）の開催期間中、4,966の方が来館されました。

ホールではこれまでの発掘調査関連の年表や、これまでに刊行した発掘調査報告書などを展示し、当センターの業務内容などを紹介しました。展示場の旧石器時代「大型獣狩人のアイテムボックスと戦略スタイル」では能美市灯台笹下遺跡出土品をもとに、狩猟方法や環境などについて視覚に訴える展示をし、「激変する気候」で環境の変化に伴う狩猟対象や道具の変化など、縄文時代への変動を紹介しました。縄文時代の「豊かな海がやってきた」では七尾市三引遺跡をとりあげ、7千年前の縄文海進期に海の幸・山の幸などを無駄なく利用した人々の生活を紹介します。「縄文の宝箱」では、素敵なアクセサリや土器のデザインなどをみてもらいました。弥生時代の「拠点集落の誕生」では、小松市八日市地方遺跡の住まいや墓、環濠集落の構造などを紹介しました。多様な木製品の製作、クリの入った編み籠やトチノミの出土、碧玉やヒスイなどで勾玉・管玉が製作されていたことなど、当時の拠点集落の様子を伝えました。古墳時代の「豪族居館の出現」では、金沢市畝田・寺中遺跡、小松市千代・能美遺跡をとりあげ、水運や生産活動、祭祀などに川を利用した地域の豪族（首長）のいた集落の様子を紹介しました。「墓から古墳へ」では、墓がヤマト王権とのつながりの強さを表すものとなる点を出土品で示し、子どもたちが鉄剣などを食い入るように見ているのが印象的でした。また、職員が製作した土器を移植ゴテで掘り出す「発掘体験コーナー」では子どもたちが手を砂だらけにしなが楽しんでいました。



ホール展示



旧石器時代の展示



縄文時代の展示（三引遺跡）



弥生時代の展示（八日市地方遺跡）



発掘体験コーナー



見学の子どもたち



古墳時代の展示  
（畝田・寺中遺跡、千代・能美遺跡）



古墳からの出土品を見る子どもたち



発掘報告書の展示コーナー

## H29 古代体験

## 『古代体験まつり』

平成29年10月8日(日)に第19回古代体験まつりを開催しました。天候にも恵まれ、家族連れを中心とする約1,100人の来場者でにぎわいました。今回は「実験ガラス玉」、「ミニチュア弓矢に挑戦」、「試食縄文イモ」、「発掘体験」など新たな体験コーナーが加わり、21のコーナーが設けられました。

ステージイベントでは、『辰巳<sup>たつみ</sup>こんころ太鼓保存会』による和太鼓演奏が行われ、力強い音が会場に鳴り響きました。演奏後は来場者も太鼓打ちに参加し、和やかに演奏者との交流が行われました。

どの体験コーナーも終日にぎわいをみせていましたが、とりわけ、「縄文弓矢」、「クイズラリー」、「組みひもづくり」が人気で、「まが玉づくり」、「火おこし」、「クルミ割り」なども好評を得ました。



和太鼓演奏



火おこしレース



まが玉づくり



組みひもづくり



実験ガラス玉



ミニチュア弓矢



古代サウンド



農園収穫



試食縄文イモ



発掘体験



縄文弓矢



火おこし



# まいぶ人日誌

平成29年  
7~10月

7月

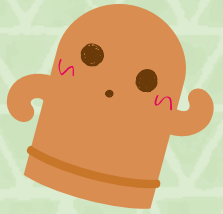


「いしかわの発掘展」準備中



「人物はにわ」を作ろう

みんなでまが玉づくり



8月

木簡に夏休みの目標を書いたよ



サトイモが  
大きく育ったよ



「人物はにわ」がたくさん並んだよ



藍できれいに  
染まったね



発掘体験!!  
土器は出て  
くるかな?



9月

ラジオの  
生放送がきた!



紅葉  
してきたよ



アワ・キビ・ヒエ  
が大きく育ったよ



はじめての  
須恵器づくり



サトイモ掘れたよ!!

縄文アクセサリーを  
作ってみよう



「古代体験まつり」の  
準備中〜。  
間に合うかな?



親子で  
まが玉製作中



10月

